

見つけて 考えて 連携する 環境教育の実践

里山での全校活動「猪子山活動」や地域の川「山路川」の水環境学習を中心にして、琵琶湖を大切にしている環境教育を進めている。「見つけて」「考えて」学習したことを生かし、地域や家庭と「連携する」日常実践的なエコスクール活動を展開している。

1. 学校環境

大正2年に創立された本校は、琵琶湖の東、東近江市の能登川地区中心部にある。JR能登川駅から近く、京都・大阪への交通の便もよいため、学区には商店街や住宅地が広がっている。児童数 643 名の大規模校である。

学校から徒歩 5 分程度のところに地域の里山である猪子山がある。古墳や遺跡なども近くにあり、歴史学習の素材にも恵まれている。

また、湧水が豊富な比較的美しい川が近くを流れている。

2. 実践事例

(1) 豊かな実践活動の出発点、身近な里山「猪子山活動」

本校では、近くの里山「猪子山」をフィールドに、年 2 回、全校での環境学習「猪子山活動」を実施している。四季折々の美しさを見せる猪子山に関わり、郷土の自然の豊かさを体感することをテーマに活動している。自分たちで課題を設定し、昆虫などの生き物や木や草花などの植物の調査、古墳や遺跡の歴史学習、クラフトやネイチャーゲームなど多様な活動を行っている。

サワガニ、キクラゲ、クヌギ、オオバヤシヤブシなどの生き物とふれあい、親しむことができるとともに、エコスクール支援委員会や能登川博物館などの支援を得て、専門的なアドバイスをいただいている。

4 年生では、自分たちが見つけた動植物を書籍やインターネットを使ってさらによく調べ、猪子山図鑑を作成した。調べたことやわかったことを掲示物等でまとめたり、発

表する活動を通し、生息する多くの動植物を知ることができ、猪子山への愛着を深めることができた。さらに、5、6 年生は、荒廃し竹やぶと化した山麓を市内の八日市南高等学校緑地デザイン科やまちづくり協議会、地元自治会等の地域団体と連携し、もとの雑木林にもどす「森林再生プロジェクト」にも取り組んでいる。竹の増殖を防ぐために伐採した竹は、八日市南高等学校緑地デザイン科の学生たちに教わり、竹垣を作ったりして有効に使っている。



夏季休業中の下草刈り

(2) 美しい川を守る「山路川調査」

琵琶湖に面し湧水が豊富な能登川地区では、特に水環境について関心が高い。本校では琵琶湖の水を守るため、地域の川の様子を調べる活動を、5 年生が中心となって行っている。

近くを流れる湧水の豊富な山路川で水環境の調査活動を実施し、魚や水草だけでなく水生生物(指標生物)を調べ、上流から下流へと水の汚れがどうなっているかの調査を行った。

また、透明度調査やパケットを使用した COD 調査を行い、上流から下流へと徐々

に汚れていく現状を見ながら、その原因を探ってみた。その結果、希少な魚スナヤツメが観察できることもあり、下流でも水質が随分改善されてきていることがわかった。

（３）進んで環境を守る実践活動「エコスクールプロジェクト」

教科等の学習で、見つけて、考えて、培った環境を守ろうとする子どもたちの思いを、日常的な実践活動に結びつけるのが「エコスクールプロジェクト」である。本校がこのプロジェクトに参加して11年目となる。

このプロジェクトは、子どもたちで作ったエコスクール委員会が中心となり、自主的に環境を守る活動を展開する。「緑を育て、川を守り、地球にやさしくしよう」というキャッチフレーズのもと、持続可能な未来社会を創造するための基礎として多様な活動を展開してきた。

本校では、エコスクール委員会の児童が水・電気・ごみの3グループにわかれ、省エネ、省資源の活動を中心に、全校に呼びかけている。

水グループは、ポスター等を作成し、節水と呼びかけている。エコスクール支援委員会の方々に作成していただいた雨水タンクや豊富な地下水を生かして手押しポンプを、花の水やりに役立っている。水の使用量は大きく節約できた。

電気グループは休み時間の電気チェックなどを行った。自転車発電機でつくった電気を蓄電する活動に取り組み、電気は簡単に作れないことを活動から学んだ。



自転車発電の様子

ごみグループは、「ストックハウス」でのごみ計量、ごみ箱点検、インクカートリッジ回収、川のそうじ、リサイクルコーナー設置等の活動を実施している。これまでの取組でごみ削減の成果を上げてきた。PDCAサイクルを重視し、活動の発展につなげている。川のごみが多いので、エコスクール委員会の活動で川の掃除を実施した。

夏には暑さに対応するため、新校舎に朝顔で緑のカーテンを育てた。節電効果を上げるほど成長させることはできなかったが、節電

する意識付けはできたと思われる。

さらに、代表児童は、「しがまなび 発見」に参加し、発表の機会を与えていただいた。発表や交流を通して、堂々と自分たちの取組や考えを発言することができた。

また、今年度の新たな取組として、全校児童を対象とし、ごみ・電気・水に関する「エコ〇×クイズ大会」を開催した。全校児童のエコ意識の全体的な底上げにつながっていくことを目的に、エコスクール委員会児童が中心となって計画し、多くの児童を集めて実施することができた。



エコ〇×クイズ大会

（４）地域で支えるエコスクール支援委員会

このように充実した環境学習ができるのも、地域との連携が密だからこそである。特にエコスクール支援委員会は連携の中核となる地域団体である。地域の有識者や行政の方々、PTA代表等で組織し、支援やアドバイスをいただいている。今年も、猪子山活動等の指導など支援していただいた。山路川博物館では、児童と一緒に川に入り、生物の集め方や名称など専門家としての知識を児童に伝授していただいた。

3. 今後の課題

エコスクール活動が学校から各家庭まで浸透し、各家庭の意識を高めることにつながっている。ペットボトルキャップなどの回収を呼びかける活動では、児童保護者だけでなく、地域住民からの協力も得られ、地域全体の意識も高まってきたように感じる。

今後も、全校児童が高いエコ意識を持って学校生活や家庭生活を送るように働きかけていくとともに、学校が環境教育やエコ活動の核となり、連携し協働した活動を継続し深めていけるようにしていきたい。

学校名	東近江市立能登川南小学校
住所	東近江市猪子町12
電話番号	0748-42-0148
E-mail	notminamisho@higashiomi.ed.jp